

ポスター発表 企画趣旨概要

- ① 兵庫県:岡紗也子・関野純子(幼保連携型認定こども園はまようちえん教諭)
テーマ:はまようちえんのカリキュラムマネジメント
はまようちえんでは、年間をⅠ期からⅣ期にわけて、各期ごとと年間のねらいを年齢別に作っています。また、子どもの育ちを標準的に捉えるために、ようちえんチームは『教育課程』、ナーサリーは『指導計画』また食べるの部門でも『教育保育課程』と『活動計画』を作成し、その都度見直しを行っています。今回は、その中でも一番力を入れている“ねらいづくり”について発表させていただきます。チームのみんなでミーティングを重ねながら、カリキュラムを作り上げ、見直しを行うことが、「みんながみんなをみているひとつの家族」というはまようちえんの「チーム保育」を支えています。
- ② 北海道:吉田麻実子(星置学園認定こども園星の子幼稚園学年主任)、細矢綾・戸澤沙知・山木涼莉(星置学園認定こども園星の子幼稚園教諭)
テーマ:異年齢の関わり～年長児のお世話から見えたもの～
当園では平成29年度の研究主題として「年長を幼稚園の中心とした幼稚園生活を送る」というテーマを持ち生活や遊びの面で年長を中心とした幼稚園生活を構築してきた。その中で、4月の入園当初から年長児は年少児のお世話を行った。その過程・実践を踏まえ、異年齢の関わり、年長を中心とした生活・遊びのルールなどの構築、様々な行事への取り組みについて、また相互の育ちなどを発表します。
- ③ 大阪府:有友順子(幼保連携型認定こども園庄内こどもの杜幼稚園主幹保育教諭)、塩塚ひとみ・岩崎巧(幼保連携型認定こども園庄内こどもの杜幼稚園副主幹保育教諭)
テーマ:現場での保育の質向上(特に保育中)のため～対話的關係の中で～
当学園は今年度よりポートフォリオを導入することをきっかけに、園内の業務改善を行った。今回の業務改善は、「現場での保育の質向上に寄与するように」として、組織改編や書式変更を行った。そして、それらの改善をきっかけに、様々な所で対話的に保育の話がなされるように行った。今年度から取り組んだ内容であるが、今回の発表を通して、この改善の目的を確認し、中間的な成果と課題を見出せるものになればと思う。
- ④ 青森県:藤野和子(幼保連携型認定こども園弘前大谷幼稚園園長)、大和田佳織(幼保連携型認定こども園弘前大谷幼稚園保育教諭)
テーマ:子どもたちが自ら育つ園庭環境と保育形態
園に通うすべての年齢の子どもが、自ら挑戦することができ、自ら成長していくための環境とはどういうものかを求めて幼稚園から認定こども園へと移行してからの3年間の実践を発表します。子どもが育つ園庭とはなにか。遊びこめる園庭とはどんなところか。を求め、研修を重ねながら園庭整備をおこないました。遊びこむとはどういうことかを子どもたちから始まる保育計画に変えながら常に一斉保育のスタイルだったのを見直し、放任ではない自由保育の形態を模索しながら変えていくことで子どもたちの姿や関わるおとなたちの意識に変化がありました。
- ⑤ 佐賀県:福元芳子(西九州大学附属三光幼稚園副園長)、吉浦沙知子(西九州大学附属三光幼稚園管理栄養士)、松山華子(西九州大学附属三光保育園管理栄養士)
テーマ:子どもの食環境に関する分析と提言
本園では第三次食育推進計画に則り、定期的な保護者へのアンケート調査を行いながら子どもの食環境の整備と充実に努めている。今回、平成30年4月にアンケート調査を実施し、子どもの身体状況、家庭での食行動、子どもの食に関する知識などについて過去のアンケート結果と比較し考察を行った。分析から見えてきた子どもの食環境に関する今日的課題を踏まえ、健康な心と体を育むために必要な活動や体験を取り入れた食育について、改定された法令との対応を検証しながら一人一人の発達過程に応じた栄養指導や保護者および保育者への適切な情報提供を行うことで食育の充実・発展を目指す。
- ⑥ 大阪府:岡部祐輝(幼稚園型認定こども園高槻双葉幼稚園主事)、埋橋玲子(同志社女子大学教授)
テーマ:遊び・学びが日々生み出される保育室環境を目指して～保育環境評価スケールが持つ可能性の視点から～
当園では「保育環境評価スケール」(埋橋玲子著)をもとにした、保育室環境づくりを年長より段階的に行ってきた。様々なコーナーを設定し、子どもたちが遊びを自ら選択し、遊びを生み出すことができる環境づくりを大切にしている。保育環境評価スケールの視点で取り組む中で見えてきた課題に向き合うために、「プロジェクトアプローチ的な視点」、「ユニバーサルデザインの視点」などを加えた保育室環境づくりについて研究を行っている。現時点での成果と課題を発表し、よりよい保育室環境を考える契機としたい。
- ⑦ 東京都:黒崎知子(武蔵野東第一・第二幼稚園学年総主任)、戸田裕美子(武蔵野東第一・第二幼稚園年長担任)、西山直希(武蔵野東第一・第二幼稚園年少主任)
テーマ:創造的な子どもの姿と教師の援助
社会が急激に変化していく時代に生きる子どもたちは、主体的に環境に関わりながら、自ら課題を解決していく力や、新たな発見を取り入れていく柔軟性などが必要とされる。そのため一つには、幼児期において「創造性」を育むことが大切なのではないかと考えた。そこで、教育重点を「創造性を育む」とし、教師全員で「創造的な子供の姿」を捉えたエピソードを持ち寄り分析し、本園で捉える「創造性」についてまとめた。また、発達年齢ごとの「創造性の育ち」と、教師の援助や環境構成について考察した。

- ⑧ 大阪府:平林祥(大阪府私立幼稚園連盟教育研究委員会教育研究副委員長)、埋橋玲子(同志社女子大学教授)
テーマ:OPARK:継続的な園の質向上のための園評価と研修～リーダーシップ・マネジメントの質向上に着目して～
大阪府私立幼稚園連盟では、2015年度より継続的な園の質向上のための園評価と研修のシステム「OPARK」の構築に取り組んできた。保育の質を向上する上で、各園のリーダーシップやマネジメントの質の向上は大変重要であるにもかかわらず、それらに関する具体的な訓練や研修などは組織的に実施されていない。尺度の作成とそれを用いた自己評価の支援、外部評価の実施、実態に応じた実地指導や研修の提供などを通して、リーダーシップやマネジメントの質の向上から園の質向上を目指す取り組みについての中間報告を行う。
- ⑨ 大阪府:高田昌代(常磐会短期大学付属いずみがおか幼稚園教頭)、外村麻美(常磐会短期大学付属いずみがおか幼稚園保育教諭)
テーマ:「統合ではなく、包括的?インクルーシブ教育ってなに?」～子どもたち一人一人が多様であることを前提に、個々に応じた配慮をする。これまでの自園での取り組み～
特別支援学級のない就学前の教育施設(幼稚園・保育所・こども園など)では、今までも当たり前のように包括的な保育スタイルを実践してきました。本園でも個々に応じた対応や環境を整えながら集団としての生活や活動を進めてきています。試行錯誤しながら進む日々の中で、周りの子どもにもより良い環境となり、もちろん周りの子どもの負担にならないあり方を模索しています。本園での実践を発表します。
- ⑩ 北海道:丸谷雄輔(札幌ゆたか幼稚園園長)、竹内倫子(札幌ゆたか幼稚園教務主任)、鹿谷梢・池田麻美(札幌ゆたか幼稚園教諭)
テーマ:自由選択活動の子どもの姿から見る『学び』と『育ち』
子ども達が主体的になっている自由活動(自由遊び)において、一人ひとりの心持ちを探り、“どう育ち、学ぼうとしているのか”“必要な環境は何か”を日頃から4つのエリアに分けてチームを作り、子どもの内面の育ちについて話し合いを重ねてきた。可視化することで見えてくる“遊びがもつ意味(育ち)”を共有し、エリアを活かした新たな環境作りに役立っている。子どもの“やってみたい!”が叶う環境を共に作っていけるよう更なる学びに繋げていきたい。
- ⑪ 岐阜県:先山香代子(天使幼稚園副園長)、大山里香(天使幼稚園教諭)
テーマ:折り紙研究
年長児に折り紙の楽しさを伝えたいと思い研究に取り組んだが、最初はなかなか子どもたちが興味を示さなかった。子どもたちが主体的に取り組むことができるようにと願い、子どもの姿を観察し記録を取り始めた。環境構成や保育者の働きかけを考察するうちに子どもたちの姿に変化がみられるようになった。意欲・関心・集中力があがり、喜び・達成感・創造力・コミュニケーション力があがった。また、園内研修で提案したところ、全職員が共通意識を持つようになり、年中児や年少児も興味を持つようになり園全体で取り組むことができた。
- ⑫ 大阪府:谷本里佳・正井理紗(学校法人春緒野学園東豊中幼稚園教諭・学年主任)、橋本祐子(関西学院大学教育学部教授)
テーマ:子どもたちのやってみたい!を大切に・・・ ～グループタイムを通して見られる子どもの育ち～
目の前にいる子どもたち一人ひとりの発見や気づきに寄り添い、より興味が広がるような言葉かけや関わり方をするのが保育者の役割です。本園ではクラスのみんなが集まり、子どもたちが主体となって、自分たちの生活や遊びを決める時間(グループタイム)を大切にしています。グループタイムという時間が子どもたちにとってどのような心の育ちに繋がるのか、各学年の事例を使って発表します。また、園の教育方針との関連性や課題について述べ、それに対する取り組みを報告します。
- ⑬ 埼玉県:小出美緒・岡部明日美・藤生由希子(文京学院大学ふじみ野幼稚園教諭)
テーマ:環境を通しての保育の基本～サツマイモ収穫の実践事例から～
本園では、野菜を栽培したりそれらを収穫して味わったりすることを通して旬の野菜に触れたり子どもたち自身が育てたりする機会を大切にしている。これまで、「食への関心を高める」視点から行ってきた栽培活動であるが、新教育要領における「幼児教育において育みたい資質・能力」を踏まえ個人の知識や技能の基礎(遊びや生活の中で、豊かな経験を通じて何かを感じたり、何かに気づいたり、何かが分かたり、何ができるようになるのか)の視点から捉え直してみたい。サツマイモ収穫の事例を通して得られた幼児の実態と保育者の援助について報告すると共に活動展開について考えていくこととする。
- ⑭ 大阪府:中村斉子(認定こども園関西女子短期大学附属幼稚園副主任)、稲垣晃子(認定こども園関西女子短期大学附属幼稚園教諭)
テーマ:子育て・親育ち
当園では、「子どもたちのこころのねっこ(ありがたいの気持ち)(頑張ろうとする気持ち)(遊びの中でのたくさんの発見をする)を育てる」ことを大事にしたいと思っています。入園前の親子クラスの活動で、保育者や親(保護者)が子どものやる気、意欲の芽生えをいかに育てていけるか、保護者の子育ての不安に寄り添いながら、子ども達の「今の思い」に着目しました。園の特徴である、絵画製作や広い園庭での遊びを通して、子どもが育ち、共に親も育つ環境づくりや取り組みを発表したいと思います。

- ⑮ 宮城県: 曾根未来・千葉麻衣・大庄司里帆(緑ヶ丘第二幼稚園教諭)
テーマ: 幼児と教師が共に創る遊びや保育
幼児の遊びの繋がり、発展はどのような経験の積み重ねによって発展していくのか、また、年齢と共に充実していく遊びが、将来の学びの基礎に繋がる経験はどのように育っていくのかに焦点をあてて、幼児期の終わりまでに育って欲しい10の姿との関連を探った。
- ⑯ 山口県: 片山美香代(小郡幼稚園教頭)、田中陽子(小郡幼稚園全体主任)、片山遊(小郡幼稚園音楽指導主任)
テーマ: 園と家庭との信頼関係を築く～「持ち帰り製作物」の品質向上から得られること
保育の仕事で実感できるのは、幼児期は豊かに生きるための「感性」と「やる気」を育む人間成長期にあるということ。それは「ほんもの(真)」「よきもの(善)」「うつくしきもの(美)」という『世界』に出会うことの大切さを私たちは保育環境を通し伝えることだ。このような想いで、本園で季節ごとに製作し家庭へ持ち帰る製作物はすべて手づくりされる。それら30点をブース展示し、園と家庭が信頼感でつながる保育のあり方と保育の「質」について来場者と考察したい。
- ⑰ 青森県: 竹ヶ原一恵(認定こども園百石幼稚園保育教諭)、栗原美穂子(認定こども園百石幼稚園子育て支援員)、天間歩美(認定こども園百石幼稚園保育教諭)
テーマ: 足底から見た、子どもの発達と遊びの検討
本園は、広い園庭、恵まれた自然環境の中で戸外遊びを全学年取り入れている。その中で力を発揮しにくいと感じている子や、不器用さを感じている子に遊びを通じて効果的なアプローチの方法に取り組んだ実践を報告する。
- ⑱ 千葉県: 柴田茂樹・草野裕之・戸井田あけみ(学校法人健伸学院教諭)
テーマ: 自然生活における子どもたちの変容 ～健伸の森の生活を通じて～
子どもは自然と触れ合い生活する中で、自然事象に対する科学的な見方や考え方、人と自然、人と人の関係を理解する力を育てていく。また自然や人を大切にする心や態度を養う過程で身につく力こそが、自然体験学習にて求められるべき力であり、これからの教育の発展においてますます重要となる。本実践研究では「健伸の森」という子ども主導でデザインされる自然環境に舞台を移し、生活の場を充実させるため森づくりを子どもたちと共に進め考える時、健伸の森で身につける力とはどのようなものなのか。またそれらをどう身につけていくのか。「子どもの姿の変容」という視点で事例を一つ一つ分析していく。本実践研究の森作りにおけるプロセスやその成果が、更なる自然体験学習の在り方の可能性に寄与することを期待している。
- ⑲ 熊本県: 宇梶達也(荒尾第一幼稚園園長)、松川夏海(荒尾第一幼稚園年少組担任)、増永彩希(荒尾第一幼稚園年長組担任)
テーマ: 創造的な身体表現活動について考える
「うさぎさんになろう!」と保育者が子どもに呼びかけて、手で耳を作って跳ねれば、子ども達も模倣しながらうさぎになると思います。しかしもっと、子どもたちの感性や判断などからの、内なる表現を引き出して、創造的な活動にできないだろうかと考えました。環境からの刺激を自分なりに解釈して、自信を持って楽しく動く活動のために、どんな環境や指導であればよいのか、考えていきます。
- ⑳ 北海道: 吉田耕一郎(認定こども園北見北光幼稚園園長)
テーマ: 未満児の発達に沿った保育援助
未満児保育の実践について発表します。一人ひとりのリズムに則した昼食や午睡、おむつ交換などの実践について報告します。
- ㉑ 東京都: 小林マヤ(ポピンズ国際乳幼児教育研究所主任研究員)
テーマ: 年長児への『しなやかマインドセット向上レッスン』による効果
本研究では、都内の4園に所属する年長児に対し、しなやかマインドセット(能力を可変的とみなす考え方)を向上させるレッスンを週1回(30～40分)8週間に渡り行い、年長児のしなやかマインドセットが向上するかを検討した。その結果、レッスンを受けた年長児(N=42)の方が、受けなかった年長児(N=33)よりも、しなやかマインドセットが有意に($\rho = .001$)向上した。
- ㉒ 大阪府: 川野辺綾子(青山幼稚園副主任)、大澤茂男(大阪青山大学学部長・教授)、岩倉健士(青山幼稚園年中児担任)、今西彩(青山幼稚園年少児担任)、榎田慎(青山幼稚園年少児担任)、橋本果奈(青山幼稚園年中児担任)
テーマ: その遊びの中に「主体的・対話的で深い学び」はありますか。(遊びのなかにある「主体的・対話的で深い学び」)
幼児は遊びを通して他者と関わり、世界を広げながら学び育っていく。新しい幼稚園教育要領においても「幼児の自発的な活動としての遊びを生み出すために必要な環境を整え、一人一人の資質・能力を育んでいくこと」は強調されている。今回は教師が子どもたちの遊びを促すべくかかしの仕掛けを施し、遊びを通じた学びの成果(エビデンス)を抽出することにより、そこに見出される「主体的・対話的で深い学び」について実践的に考察する。
- ㉓ 北海道: 小端未来(はやきた子ども園保育教諭)、井内聖(北海道大学大学院生・(学)リズム学園学園長)
テーマ: 3歳児の生活場面(昼食時)で見られる学びの姿～環境との相互作用において～
遊びを通しての指導が中心となる幼児期の教育において、幼児期にふさわしい生活とは遊び場面だけではなく生活場面や生活行動もある。遊びと生活を分けることなく両者を幼児の環境としてとらえた場合、生活場面においても学びの姿が見られるはずである。本研究では3歳児の昼食時の生活場面に焦点をおき、教師によって環境調整された生活空間においてどのような学びの姿が見られるのかを環境との相互作用の視点から探っていきたい。

- ②4 長崎県:加藤美香子(学校法人愛光学園幼保連携型認定こども園三和幼稚園主幹保育教諭)、加藤富美子(三和幼稚園園長)、深井美子(三和幼稚園管理栄養士)

テーマ:幼児教育現場から提案できる実践的食育カリキュラムの検討

現在、幼児教育現場において食育への取り組みに関心が持たれていることは広く知られている。実際に、食育は教育内容の支柱の一つになっている。これは『第2次食育推進基本計画』において、「特に人格形成期にある子どもの食育は重要である」と記載されていることから明らかである。しかし同時に、重視されるべきと謳われている食育の実践方法等には明確な柱が存在しない。そこで本研究では、三和幼稚園の園児を対象に食育について独自のカリキュラム構成および教育実践、検討を重ね、食育によって育てたいものを「体」「心」「絆」の3点に集約した。これまでの3年間の取り組みの軌跡を報告する。

- ②5 兵庫県:横山菜奈・八木朋美(認定こども園七松幼稚園保育教諭)

テーマ:一泊二日のキャンプを通じた年長児の成長と学び

平成30年6月に年長児132名が山林に面したキャンプ施設での非日常体験を行った。この体験を通して、平成30年度の学年テーマである「いのち」を踏まえ育まれた2クラス54名の一学期の間の成長と学びについて、幼児期の終わりまでに育って欲しい姿に視点をおいて研究発表を行う。

- ②6 石川県:秋山千賀子(金沢星稷大学附属星稷幼稚園主幹保育教諭)、高畠裕子・辻口真美(金沢星稷大学附属星稷幼稚園保育教諭)

テーマ:子どもが知りたい!と思う主体的な気持を大切にできる環境とかかわり

金沢を代表する伝統的なお祭りに参加したことから、自分たちの住む金沢に興味関心を持ち、知りたい気持ちが膨らみました。知りたい気持ちが、さまざまな「つぶやき」となり、それらは、金沢散策をはじめ、伝統文化・工芸、食文化の体験に繋がり、さらに体験したことは、すぐに“あそび”で再現できるよう環境を準備しました。金沢をテーマに協同的なあそびが展開され、試行錯誤しながら新しい発見をしていく姿を通して、主体的なあそびを支える環境構成とかかわりについて発表します。

- ②7 神奈川県:鈴木理恵(南大野幼稚園主幹教諭)

テーマ:保育者と子どもと主体的な遊び～先生も一緒に悩んで一緒に笑いたい～

「子ども主体で遊びを広げるってどういうこと?」年長クラスの担任になった時、遊びの場面における立ち位置や声掛けの難しさを感じるのには私に限ったことではないのではないか。さらに、「主体的で対話的で深い学び」という言葉を聞いた時、保育者が遊びの輪に入ることへの躊躇や迷いを抱いた。ある遊びの事例を通して、保育者が寄り添う必要性や、当園なりの主体的な遊びの形を考察する。

- ②8 神奈川県:石渡佳奈・白石里奈(学校法人鴨居学園鴨居幼稚園教諭)

テーマ:4年目のわたし～これまでの保育日誌から見えてきたこととは・・・～

今年は3年の経験から落ち着いて保育に臨んでいるように思う私。しかしこれまでは“どうして先輩先生のようにスムーズに生活が進んでいかないのだろう…”“どうして同じ制作物をしているのにかかる時間がこんなにも違うんだろう…”と感じ上手くない生活に悩み、涙した日も…。そんな私も最近園長先生や先輩先生たちから保育の展開が良くなったと時々声をかけられるように…。なぜだろう…。どこが違うのだろう…。この想いから過去3年間の保育日誌を振り返り、その違いを探ってみたいと思う。

- ②9 大阪府:湯浅優典(せんりひじり幼稚園教諭)

テーマ:預かり保育・異年齢交流における植物あそびの一考察～異年齢による育ちの違いを見取る～

本研究では、本園のホームクラス(預かり保育 3,4,5歳児)の子どもたちの自主的できいきと取り組む自然・植物遊びに着目し、様々な植物と関わる中で見られる異年齢交流や各年齢によって見られる植物との関わり方の違いや育ちの違いを見取り、自然・植物あそびの重要性の検証、考察をしていきたいと考える。

- ③0 福岡県:森田優美香(学校法人玄海学園貝塚幼稚園教諭)、庄司誠(学校法人玄海学園貝塚幼稚園園長)、門口礼佳(学校法人玄海学園貝塚幼稚園教諭)

テーマ:子ども主体の園外保育を目指して～自然とのかかわりを通して育む10の姿～

本園では、毎月1回、その日の天候や気温に関係なく自然豊かなアイランドシティ中央公園という場所に出掛けている。目の前の自然に対して主体的にかかわり、様々な体験をすることで、「命」と向き合い豊かな心や感性を育てているが、学年によっては教師主導になることも多い。そこで、「子ども主体」の保育実践をもとに園内研修を行い、『自然とのかかわりを通して育む10の姿』という視点で考察したことを研究発表する。

- ③① 愛知県: 稲生圭子(学校法人東ヶ丘学園明愛幼稚園教務主任)

テーマ: 幼児期の「道徳性」に関する研究—幼児が「主体的」に「道徳性・規範意識の芽生え」を培うための教師の援助とは—

幼児教育において教師が集団生活のどの場面で「道徳性・規範意識の芽生え」を培う援助をすれば良いのか、幼児の「主体性」を尊重しながら援助するにはどうすれば良いのか、これらはベテラン教師でも悩むことが多い。そこで本研究は幼児の「話し合い」場面に着目し、幼児が「主体的」な「話し合い」を重ねることで「道徳性・規範意識の芽生え」を培うことができるのではないかと、また、「話し合い」場面において教師はどのように援助すれば良いのか、5歳児の観察を通して事例研究を行い、明らかにした。

- ③② 青森県: 淡路寛子(千葉幼稚園教務主任)、月舘麻里・葛西幸(千葉幼稚園教諭)

テーマ: 園内研修が保育を変える

保育の質向上のために、当園でもこれまで様々な研修を積み重ねてきてはいるが、果たして保育はどのように変化しているのか? 自分たちが積み重ねていることの意義と実感のないままに日々を過ごしていることに気付き、改めて園内研修がどのように保育を変えてきたのか? 当園で取り組んでいる様々な研修がどのように保育に活かしているのか、あらためて保育者目線で検証してみたい。それが今後の園内研修の充実へとつながるようにと。

- ③③ 奈良県: 宮本忠史(畿央大学附属幼稚園園長)、柴田満(畿央大学助教)

テーマ: 食育活動の実践/子供の健康と安全(AⅡ-2)～給食の残食に注目した献立改善の取り組み～

本園では平成27年4月より、保育者が毎回給食時に園児の残食量やおかわりの回数を記録している。残食の多い園児については、具体的に食材まで追跡し嫌いな食材を食べることができるように指導している。また、残食量やおかわりの回数などの園児の喫食状況、栄養面などから献立の分析を行っている。本園における園児の望ましい食習慣形成に向けた給食の取り組みについて報告したい。

- ③④ 高知県: 小野川眞由美(学校法人日吉学園認定こども園もみのき幼稚園・めだか園教諭教務主任)、川野奈也(学校法人日吉学園認定こども園もみのき幼稚園・めだか園教諭教務副主任)、内田悦行(学校法人日吉学園認定こども園もみのき幼稚園・めだか園園長)、内田泰史(学校法人日吉学園認定こども園もみのき幼稚園・めだか園理事長)

テーマ: 水田フィールドでの森のようちえん活動の感動体験と劇の創作

森のようちえん活動として、約7か月間の水田体験を行った。どろんこ遊びから始まる田植え。近くの川遊びも兼ねての観察。鎌での稲刈り、天日干し。台風で飛ばされた稲束を一本残らず拾う。脱穀を手伝う。餅つきもした。自然の中でいろいろな動物との出会いなどたくさんの感動。思いやり、がんばる力、考える力を身につけてたくましく育っていった。そしてそれをみんなで劇に仕立て上げて、発表会で立派に上演した。見に来てくれた家族と感動体験を共有することができた。

- ③⑤ 神奈川県: 亀ヶ谷元謙(宮前おひさまこども園副園長)、藤森美佳(宮前おひさまこども園2歳児学年主任)、稲野邊紗希(宮前幼稚園4歳児学年主任)

テーマ: 明日の保育を共により良く!～日常の中に園内研修を～

今年度より隣接した場所に幼稚園型認定こども園・幼保連携型認定こども園の2園体制となった。研修時間の確保、参加職員の調整、法人として初めての乳児保育などこれまでにない課題が多く浮かび上がってきた。このような現状を踏まえ、職員の悩みや学びたいテーマを探り、それに応じた研修を企画・実施していくことで職員が一丸となって保育を創り上げていくことを試みている。その取り組みについて発表する。

- ③⑥ 北海道: 馬場千賀子(恵庭幼稚園教諭)、井内聖(北海道大学大学院生・(学)リズム学園学園長)

テーマ: 3歳児の生活場面(登園時)で見られる学びの姿～環境との相互作用において～

遊びを通しての指導が中心となる幼児期の教育において、幼児期にふさわしい生活とは遊び場面だけではなく生活場面や生活行動もある。遊びと生活を分けることなく両者を幼児の環境としてとらえた場合、生活場面においても学びの姿が見られるはずである。本研究では3歳児の登園時の生活場面に焦点をおき、教師によって環境調整された生活空間においてどのような学びの姿が見られるのかを環境との相互作用の視点から探っていきたい。

- ③⑦ 東京都: 松原彩・大藪万由美・伊川千晶・佐野綾子・榎千尋(大和郷幼稚園教諭)

テーマ: 園内研修～エピソード記録から見えてきたもの～

「よく遊んでいる」と感じたエピソードを記録することで、子どもの育ちが見えてきた。さらにそのエピソードを保育者間で読み合い意見を出し合っていた中で、出てきた課題、現状について発表する。

- ③⑧ 兵庫県: 森陽一・宮崎英輔・大山絵里奈(立花愛の園幼稚園主任)

テーマ: プロジェクト保育をより効果的なものにしていくための4歳児と5歳児のつながり

当園ではここ数年、より主体的な子ども達の取り組みを目指し、5歳児が各学期に1回のプロジェクト保育を行い始めるようになった。2年前に年長児の子ども達が取り組んだプロジェクトの活動終了後に、4歳児を招待し体験してもらう機会を設けてみた。すると、前年度に招待を受けた子ども達がプロジェクトを行う立場になった際、保育者が予想していた以上に前年度の年長児の姿がモデルとなっており、イメージを持って活動を進める姿があった。今年度は、より一層の豊かな経験を目指し、4・5歳児の保育の在り方を見直してみた。

- ③⑨ 北海道:小田進一(北海道文教大学附属幼稚園園長)、梁川千尋・細田菜津子(北海道文教大学附属幼稚園教諭)
テーマ:あそびまつりを通して、子どもと保育者の育ち～主体的な遊び(徹底的に遊びこむ・子どもの発想を大切にす
る『やりたい』『できた』を保障する)を支える～

園敷地内終日自由選択活動(あそびまつり)は、自分で選んだ場所、遊び、タイムスケジュールで一日を過ごすことのできる活動である。保育者は、子どもたちの声に丁寧に耳を傾け主体的に遊び続けることができるための援助をすることにより、相互性のある生活の楽しさを学んだ。今年度は、遊びこむ中での学びを通して、より主体的に変化すること
もたちの行動を記録化し、その成長を客観的に検討できる方法を考えてみた。

- ④⑩ 栃木県:小林香織(認定子ども園七井幼稚園保育教諭)

テーマ:運動意欲を高める「頑張り表」について

「まず獣身を成して後に人心を養え」という福沢諭吉の言葉があります。幼児期は体を鍛えなさいという意味です。七井幼稚園の保育理念は「楽しく、たくましく」。まさに当園にぴったりの言葉です。今回は15年前から取り組んでいる「頑張り表」について再考し、更に興味を持って運動に取り組もうとする意欲を育てたり、運動能力の向上に活かそうと
考えています。「頑張り表」は①鉄棒②うんてい③縄跳び④竹馬⑤跳び箱の5つの運動に挑戦して5～10項目をクリアする活動のことです。1つクリアするごとにシールを貼ります。担任とボランティア保護者が参加して約2ヵ月間行われます。冬期の朝の時間を利用した体力増進活動です。延べ100名のボランティアが来園することで家庭での取り組みも期待されます。

- ④⑪ 神奈川県:藤田有希・兼房里絵・亀山勝平・遠藤尚美(西鎌倉幼稚園教諭)

テーマ:通常保育と預かり保育の接続・連携

西鎌倉幼稚園では、通常保育の前後の時間に預かり保育を行っています。ここ数年、預かり保育の利用者数が増加傾向にあることから、通常保育と預かり保育の時間をより連携させていきたいという想いが大きくなってきました。しかし、通常保育のクラス担任と預かり保育の職員との間では、お互いの保育を把握できていない部分があることに気が付きました。通常保育と預かり保育の接続・連携の大切さについて考え、お互いの保育がより密接になるよう考えていきます。

- ④⑫ 北海道:鎌田幸恵(恵庭市こすもす保育園保育士・3歳以上児主任)、村松良太(恵庭市こすもす保育園園長)

テーマ:子どもの社会性の育み～物を“つくる”活動から“みせる”活動を通して～

異年齢クラスのアソビの様子から見えてきたのは“つくる”活動が好きということ。新しい環境を用意すると、様々な素材を使った創作アソビを始める子どもたち。作品が出来上がると次第に見てもらいたいという気持ちが高まり、作品を“みせる”活動に繋がっていった。JR 駅直結という立地を活かし、保護者や地域の方を招いた大きなイベントに発展していき過程を紹介しながら、一連の取り組みの中で身につけていった社会性や育ちについて考察する。

- ④⑬ 京都府:川口あゆみ・中村優子・小山牧子(泉山幼稚園教諭)

テーマ:相互理解を大切にした3歳未満児の保育

3歳未満児の保育を実践してきて14年になります。この時期は、愛着形成を基盤とした情緒の安定や他者への信頼感が育まれる大切な時期であるということを実感しています。この時期に子どもたちの育つことを丁寧に見守り、保護者と育ちを共感し、少しずつ集団生活へ入っていけることで子どもも保護者も安心して過ごせる保育の在り方や、保育環境について発表します。

- ④⑭ 神奈川県:平章宏・上沢佳代子・伊藤香奈(認定子ども園捜真幼稚園保育教諭)

テーマ:幼保連携型認定子ども園における長時間保育の工夫

長時間保育を始めた頃の利用者は約20名程。6年目をむかえた現在は、その3倍にも増えている。その中で環境設定、保育内容を考え、手紙や利用表、懇親会などを含めた保護者対応に思考錯誤してきた。その時々、より良いかたち、より良い流れを求めて工夫してきたことをひとつの区切りとしてまとめ、発表できたらと思う。人数はこれからも増えていくことが予想され、常に新しいかたちを考えていく必要があるが、私たちの園の長時間保育の歴史をお伝えすることを通して、皆様からのご意見、アドバイスを頂けたらと願う。